

題目	総合
----	----

- ※ 問題用紙は(その一)から(その六)までありますから、注意してください。
 ※ 答えは、別紙の解答らん(かたがひ)に書き入れなさい。

1 10 次の——線部を漢字に直しなさい。送りがなが必要な場合は、ひらがなで正しく送りなさい。

- | | |
|--|---|
| 1 降雨量はレイネン (らいねん) なみです。 | 2 三角形のテイヘン (たいへん) をはかる。 |
| 3 兄と弟はとても仲がヨイ (よひ) 。 | 4 学力向上にツトメル (つとめる) 。 |
| 5 カンレイな気候 (きこう) でも育つ作物。 | 6 セイカ市場で野菜 (やさい) を買う。 |
| 7 電車をリヨウ (りょう) して行く。 | 8 機械化 (きがい) で時間をハブク (はぶく) 。 |
| 9 日本のコテン文学 (こてん) を学ぶ。 | 10 国民のシヨクジツ (しよくじつ) 。 |

2 14 次の各問いに答えなさい。

問一 次の熟語の読み方は後のどれにあたりますか。それぞれ記号で答えなさい。

- 1 駅長 2 台所 3 野原 4 子役
- ア 訓読み+訓読み イ 音読み+音読み ウ 訓読み+音読み エ 音読み+訓読み

問二 次の部首の意味は、後のどれにあたりますか。それぞれ記号で答えなさい。

- 1 やまいだれ 2 けものへん 3 さんずい 4 ころもへん
- ア 水・水をともなう動作(すい)に関係あること。
- イ 犬・けもの(いぬ)に関係あること。
- ウ 衣服(いふく)に関係あること。
- エ 病気(びやう)に関係あること。

問三 次の漢字の部首名を後から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- 1 起 2 初 3 室
- 4 追 5 光 6 列
- ア しんによう イ うかんむり ウ りっとう
- エ かたな オ そうによう カ ひとあし

3 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

毎朝八時五分前に、卓司は甲州屋の店先に立ちよる。

「おはよう」

店のおくから、ランドセルをしょった鉄男がとび出してくる。

「おはよう」

卓司があいさつを返すのをあいずに、二人はかたをならべて、学校へむけて歩きます。南町小学校に入学したよく日から、もう千回近く、同じことがくり返されていた。

だが、六月半ばの月曜日の朝は、ちょっとちがった。鉄男は卓司の顔を見るなり、おはようもいわないで、

「長命湯、今月かぎりでやめるんだって」

あたりを見まわしながら、声を (A) いったのである。

①「まさか!」

自分でもおどろいたほど、卓司の声は大きかった。きのうの昼すぎから夕方まで、卓司と鉄男と勉の三人は、長命湯の材木小屋で遊んでいたが、そんな気配はまったくなかった。長命湯のおやじさんも、ふだんとかわりがなく、

「のどがかわいたろう」

とってジュースをさし入れしてくれたではないか。

「きのうのばん、おじいちゃんに聞いたんだ」

鉄男の声は、あいかわらず小さい。

「長命湯のおやじさん、ガンでもう長くないんだって」

「うそだ。うそに決まってる」

卓司は二度三度首をふったが、あまり自信はなかった。そういわれれば、最近、長命湯のおやじさんは、少しやせたような気がしないでもない。

「ほんとうかどうか、おやじさんにきいてみようよ」【あ】

卓司にとって、この日の授業のなんと長かったことか。一週間分、つくえにすわっていたような気がした。

かけ足で家にもどった卓司は、いつものように裏口へまわらずに、げんかんにランドセルをほうりこむが早い、長命湯めざして走った。長命湯の入り口には「本日、定休日」という木のふださがあって

いた。

ピ・ピ・ピ、ピュ、ピューン

裏庭の材木小屋では、ひと足早くやってきた鉄男と勉が※ゲームボーイにむちゅうになっていたが、

「おやじさんに会った?」

卓司が息をはずませてきくと、

「おやじさん、るすらしい。うわさはうそかもね。だって、はり紙がないもの」

と、勉がいった。これまで「今月かぎりで閉店させていただきます」というはり紙を何枚目にしたことだろう。ことしに入ってからだけでも、南町商店街では三げんが店をたたんだ。だが、長命湯はまだは

り紙を出していない。【い】

「よう、やってるね」

いきなり、うしろで声が出た。ふりむくと、おやじさんが立っていた。三人は (B) 立ち上がった。

さて、だれが質問するか。いざとなると、ことばが口をついてでてこない。③「だまりこくつたまま、三人がたがいに顔を見合わせていると、

「もう知ってると思うけど」

おやじさんの方から、話をきりだした。

5

10

15

20

25

30

35

40

④「うちもとうとう、今月いっぱいまでやめることにした」

シャツのポケットからたばこを一本ぬき出し、おやじさんはマッチで火をつけた。なぜか、おやじさんはライターを使わなかった。【う】

「ずいぶんがんばったんだがね。お客はへるいっぱいだし、あとつぎもない」

おやじさんにはむすめさんが一人いるが、けっこんして大阪に住んでいるということだった。

「それにわたしも、もうトシだ。人生八十年として、あと六、七年というところかな。のこされた時間を、ばあさんと二人で、静かなところでくらしたいと思つてね」

おやじさんは、いきおいよくたばこのけむりをはき出した。正面に、十三階建てのミナミ・ショッピングセンターのビルがそそり立っている。とどくはずはないが、おやじさんはうつぶんばらしに、たばこのけむりをビルにふきかけているようだった。

「最後の日は、無料サービスにするつもりだ。きみたちも、ぜひ入りにきてくれたまえ」

おやじさんの口もとがほころんだ。はげあがったひたいが、西にかたむきかけた日ざしを受けて、(C) 光っている。

⑤「ぜったいにきます」

卓司につづいて、鉄男と勉もこつくりうなずいた。三人とも、いまにもなきだしそうな顔だった。

(砂田弘「街はジャングル」〈草土文化〉より)

※ ゲームボーイ：任天堂が発売した携帯型ゲーム機。

問一◇ (A) と (C) にあてはまる言葉としてもつともふさわしいものをそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|---------------|---------|---------|---------|
| (A) : ア つよめて | イ ひそめて | ウ ゆるめて | エ なくして |
| (B) : ア じよじよに | イ いっせいに | ウ おもむろに | エ ちりぢりに |
| (C) : ア どろどろ | イ さらさら | ウ てかてか | エ とことこ |

問二◇ ー線①「まさか！」とありますが、このときの卓司の気持ちとしてもつともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 鉄男が自分をからかっていることがわかり、怒っている。
- イ 長命湯のおやじさんが長くないことを知り、悲しくなっている。
- ウ もうあのジュースが飲めなくなると思い、くやしくなっている。
- エ 長命湯がやめてしまうことが信じられず、おどろいている。

問三◇ ー線②「卓司にとってすつくえにすわっていたような気がした」とありますが、卓司がこう感じた理由を次のようにまとめるとき、空らんにあてはまるように文章中の言葉を使って三十字以内で答えなさい。

・早く長命湯に行つて、三十字以内

問四◇ ー線③「だまりこくつたまま、三人がたがいに顔を見合せている」とありますが、その理由を次のようにまとめるとき、空らんにあてはまる言葉をそれぞれ指定の字数で文章中からぬき出して答えなさい。

1 九字に「うわさが本当かどうかを確かめようとしたが、いざ2 二字しようとしたとき、3 三字がなかなか出てこなかったから。

問五④ — 線④「うちもとうとう、今月いっぱいまでやめることにした」とありますが、なぜですか。さ
わしいものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア もう数年しか生きられないと知ったから。
- イ ショッピングセンターがきらいだから。
- ウ やめるうわさが広まってしまったから。
- エ 来るお客が少しずつ減っていったから。
- オ 夫婦で静かに暮らしたいと考えたから。

問六④ — 線⑤「ぜったいにきます」と言った三人の気持ちとしてもっともさわしいものを次から選び、
記号で答えなさい。

- ア 長命湯がなくなることがが納得できず、どこに怒りをぶつければよいか、とまどう気持ち。
- イ 長命湯をなくしてしまう決断をしたおやじさんをゆるせず、腹立たしい気持ち。
- ウ 長命湯がなくなってしまうのは悲しいが、その日はただで入れることができ、喜ぶ気持ち。
- エ 長命湯がなくなるのは悲しいが、それまでは大好きな長命湯を応援しようという気持ち。

問七④ この文章を登場人物に注目して大きく二つの場面に分けるとすると、前半はどこまでですか。もっ
ともさわしいものを【あ】と【う】から選び、記号で答えなさい。

4 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「おとうちゃん、テレビ、買ってよお。」

かつおが言うと、おとうさんは、

「なに？ テレビ？」

と、かつおの顔をにらむようにながめた。

かつおのおとうさんは、屋根にトタンをはったり雨どいをかけたりするブリキ屋さんだ。

仕事がしょうずなので、よくぼうぼうからたのまれる。それで、くらしにこまるようなことはなかつ
たが、そうかといって、テレビを買うほどのゆとりはなかったのである。

けれども、かつおはテレビがほしい。ぼうしもくつも、ぼろでいいからテレビがほしい。そこで今夜、
仕事から帰ったおとうさんが、すきなお酒を飲みはじめたところで、ちよいとねだってみたのだ。しか
し、①「やっぱりどうもよくなさそうだ。」

かつおは、がっかりして、算数の宿題をはじめた。

すると、たてつづけに、ぐいぐいとさかずきを口に運んだおとうさんが、

②「ハッハッハ……。」

とわらいだして、

「かつお、テレビなんてハイカラなやつは、こんなびんぼうなぼろ家は、いやだといって、めったには
いってこないんだ。だから見ろ、おまえの友だちでも、テレビがあるのは、みなりつばな家ばかりじゃ
ないか。」

そのとおりだった。かつおは、いよいよがっかりしてやたらにえんぴつをなめた。

おとうさんは、少し酒によったように、

「だからおまえは、そういうりつばな友だちの家へ行行って、いっしょにテレビを見せてもらえばいいん
だ。いっしょに勉強しているなかまだ。テレビを見せてやらないなんて、いじわるはいうまい。ワハハ、
ワハハ。」

それもそのとおりだった。かつおは、友だちのまさはるくんの家で、もうずっとテレビを見せてもらっているのだ。

こんなわけで、次の日も、かつおは、まさはるくんの家で、まさはるくんといっしょに、テレビを見た。好きな野球と、それから、つづき物のまんが映画^映だった。

「やっぱりだめかなあ。」

と思いをながら……。

「かつお、きょうは、まっすぐ帰ってこいよ。テレビが来るんだから。」

道具箱を自転車につけながら、おとうさんが言った。

「なにっ、テレビ？」

と、^③けさはかつおがおとうさんをにらんだ。そんなの、じょうだんだらう……と思ったからだ。

すると、そばからおかあさんが、

「おとうさんは、酒もたばこもやめて、それを月ぶにまわして、^④テレビを買ってくれるんだよ。」

といった。

「ほんとなあ。」

いう心の中で、かつおは、もうそれが、ほんとにほんとなのがわかった。かつおは、学校へすつとんだ。そして、帰りは、いつそう早くすつとんだ。まるで、空でも飛ぶような気持ちだった。

家についてみると、テレビは、もうちゃんと取り付けてあった。

おかあさんはダイヤルを回してもいいといったが、かつおは、夕方までカバーをかけておくことにした。はじめてのテレビは、おとうさんと、おかあさんと、三人そろって見なければ、なにやらつまらない気がしたからだ。おかあさんも、

「かつおは、なかなかいいところがあるね。」

とって、おとうさんの帰りを待つことに、さんせいしてくれた。

「おとうちゃん。あしたから、テレビのない友だちに見せてやってもいいか。」

「あ、いいとも。いいとも。」

おとうさんは、にこにこした。ちつともお酒を飲まないのに、テレビを見ているおとうさんは、飲んだ時のように上ぎげんだった。

「じゃ、ぼく、いつどうははじめにとしおくんをよんでやるんだ。」

「としおくんひとりを、よんでやるのか。」

「うん。」

「でも、見たいという子があれば、いっしょによんでやったらいいじゃないか。」

「だって、そいじゃつまらないもの。ぼくは、としおくんをうまにして、テレビを見るんだ。」

「なにっ、おまえはとしおくんをうまにして、その上につて、テレビを見る気か。」

ぐいと、おとうさんの手がのびて、かつおは、^⑤むなぐらをつかまれた。

かつおは半分なきながら、

「だって、おとうちゃん。ぼくはまさはるくんとこでテレビを見せてもらう時、いつでも、まさはるくんの馬になつてたんだもの。」

そうしなきや、見せてもらえなかつたんだもの。」

「だから、としおくんをまた馬にするというのか、このばかめ！」

どんとつきはなされて、かつおはしりもちをついた。そのかつおを、おかあさんは、かかえおこしながら、

「かつお、おとうちゃんが、酒もたばこもやめて、テレビを買ってくれたのは、きのうおまえが、う、うまに、されているのを見たからなのだよ。」

と、声をふるわせた。

^⑥かつおは、だまつて、おとうさんのむねにとりすがつていった。

(住い井すゑ「テレビとうま」より)

30

35

45

50

55

60

65

問一◇ — 線①「やっぱり」とありますが、このときのかつおの気持ちを次のようにまとめるとき、空らんにあてはまる言葉をそれぞれ指定の字数で文章中からぬき出して答えなさい。

- ・テレビを買うほどの **A 三字** がないことを承知で聞いてみたが、父が自分を **B 十字** ので、買ってもらうのをあきらめている。

問二◇ — 線②「ハッハッハ……」とありますが、このときの父はどのように考えていますか。ふさわしくないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア テレビを持っている友だちは、お願いをすれば見せてくれると考えている。
- イ テレビを持っているのは自分たちとちがい、りっぱな家の人たちだと考えている。
- ウ テレビを見ただければ、テレビを持っている家に行けばいいと考えている。
- エ かつおが思っているよりもびんぼうだということを隠したいと考えている。

問三◇ — 線③「けさはかつおがおとうさんをにらんだ」とありますが、かつおがこのようにしたのはなぜですか。文章中の言葉を使って三十五字以内で答えなさい。

問四◇ — 線④「テレビを買ってくれるんだよ」と聞いたとき、かつおはどのような気持ちでしたか。たとえを使って表現している一文をさがし、はじめの五字をぬき出して答えなさい。

問五◇ — 線⑤「おなぐらをつかまれた」とありますが、

- 1 おとうさんはなぜこのようなことをしたのですか。次のようにまとめるとき、空らんにあてはまる五字の言葉を文章中からぬき出して答えなさい。

- ・かつおがテレビを持っていないとしおくんをよんで、としおくんを **五字** テレビを見ると言ったから。

- 2 おとうさんはこのときどのように思っていますか。もっともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア としおくんがひがいをうけたことを、申し訳なく思っている。
- イ 自分の考えが違っていたことがわかり、がっかりしている。
- ウ かつおの母が止めに入ってくれないので、あせっている。
- エ かつおの考えに腹が立つとともに、情けなくも思っている。

問六◇ — 線⑥「かつおは、だまって、おとうさんのむねにとりすがっていった」とありますが、このときのかつおはどのような気持ちですか。もっともふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア お父さんが急に怒り出した理由が理解できず、とてもおそろしかったから。
- イ お母さんが自分をかかえおこしてくれたことがうれしく、安心したから。
- ウ お父さんがまるで酒を飲んだときのような行動をとったので、おどろいたから。
- エ お父さんの気持ちを知らずに自分勝手なことを言ったことを、反省したから。

題 目	総 合	
-----	-----	--

- ※ 問題用紙は(その一)から(その六)までありますから、注意してください。
- ※ 答えは、別紙の解答らんには書き入れなさい。
- ※ 字数制限のある問いは、「」や「。」も一字として数えます。

1 10 次の——線部を漢字に直しなさい。送りがなが必要な場合は、ひらがなで正しく書きなさい。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 次の交差点をウセツする。 | 2 兄と弟はとても仲がヨイ。 |
| 3 ひまわりの種がハツガする。 | 4 学力向上にツトメル。 |
| 5 音楽のサイテンが開かれる。 | 6 グタイテキに指示する。 |
| 7 キヨウチヨウ性のある人物。 | 8 兵百万のタイグンを率いる。 |
| 9 サンコウ図書を買う。 | 10 機械化で時間をハブク。 |

2 13 次の各問いに答えなさい。

問一 ④ 次の熟語の読み方は後のどれにあたりますか。適切なものを選び、それぞれ記号で答えなさい。

- | | | | |
|-----------|-----------|------|------|
| 1 駅長 | 2 場面 | 3 台所 | 4 野原 |
| ア 訓読み+訓読み | イ 音読み+音読み | | |
| ウ 訓読み+音読み | エ 音読み+訓読み | | |

問二 ④ 次の部首が表している意味として合うものを後から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- | | | | |
|----------------------|--------|-------|---------|
| 1 やまいだれ | 2 さんずい | 3 てへん | 4 ころもへん |
| ア 水・水をともなう動作に関係あること。 | | | |
| イ 手の動作・手に関係あること。 | | | |
| ウ 衣服に関係あること。 | | | |
| エ 病気に関係あること。 | | | |

問三 ④ 次の漢字の部首名を後から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- | | | | | |
|----------|---------|---------|-----|-----|
| 1 追 | 2 室 | 3 究 | 4 光 | 5 起 |
| ア しんによう | イ うかんむり | ウ そうによう | | |
| エ あなかんむり | オ ひとあし | | | |

3 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「……かなしいねえ」

紅茶をひとくち飲んで、おばあちゃんがいます。

「志乃のいのちとひきかえに、ばあちゃんのいのちでいいのなら、なんどでもなんどでも、ばあちゃんのいのちを、あげたものを」

そしておばあちゃんは、タンスの上におねえちゃんがかざっていた、おばあちゃんの写真を見ています。そこには、家族みんなであうつた写真はありますが、おねえちゃんだけの写真はあります。

① 琴乃、おねえちゃんのアルバムから、いちばんすてきな、おねえちゃんの写真を、えらんでおくれ」

それから私たちは、顔をよせあうようにして、一ページ一ページ、おねえちゃんのアルバムを見ていたのです。そこには生まれてから、このあいだまでの、おねえちゃんの写真が、きれいに整理されてならんでいます。私のアルバムはぐしゃぐしゃですが、おねえちゃんのはちがうのです。

着かざった七五三の写真や幼稚園の入園式の写真、小学校の入学式や卒業式の写真、どれもこれも、順番どおりに、きちんとならんでいます。② 私がショックを受けたのは、そこにうつっている、とくいそうであわせそうな、とうさんとかあさんのすがたでした。ふたりはなんだか、ものすごく若く見えるのです。

おねえちゃんは、とうさんとかあさんに、いちばん愛された、なんでもよくできる、最高にいい子だったのです。そして美人でもありました。

「おねえちゃんは、きれいだったね」

「きれいというより、かわいい、いい子だったよ」

「みんな、おとなになったら、ものすごい美人になるだろう。たのしみだつていつたのに」

「そうだったね」

「きれいで、勉強ができて。……それなのに」

「これがあの子の、③ さだめだったとしたつて、くやしいねえ。……どうして、こんなつまらないおばあさんが生きていて、志乃ちゃんが死んでしまったのか、たとえそれが志乃のさだめだとしたところで、ばあちゃんはうらみに思うよ」

「さだめつて、運命のこと？」

「そうさ。……運命のあしたはわからないつて、そのことはわかっているのにね。それでも人間は生きていかなきゃいけないんだよ。生まれてきたからにはね」

「周斗のあしたもわからないの？ あの子、私なんかより、もつとつらいんだと思う。だつて、自分のかわりに、おねえちゃんが死んだんだから」

「もちろん、周斗のあしたも、琴乃のあしたも、ばあちゃんのあしたも、わからない。でもね、薬よりもお医者さんよりも、もつともつときくものだつて、あるんだからね」

「それつて、なに？」

A 時間だよ。……へいやしつて言葉があるだろう？ このごろは、あんまり軽々しくつかわれて、なんだか卑しいみたいな言葉になつているけれども、B 時間だけにしかいやすことのできない、そんな、ふかいかなしみが、人生にはなんどでも、なんどもやつてくるんだよ。時のいやしをうけとるためには、どうしたらいいか？ それにはね、どつしりとかまえて、おたおたせず、時間に時間の道をゆかせることがだいじなんだよ」

C 時間の運つて？」

「時は確実にすぎてゆくものだろう？ そうだとしたら、確実にすぎてゆかせればいいんだよ。時はゆつくりとしかすすまないのに、はやく楽になろう、どうにかして、ここから逃げだそうなどというのは、失敗するにきまつている浅知恵だと、ばあちゃんは思うよ」

「ふーん」

「どんなことがおきようと、時は時のはやさでしか、すぎてゆかないんだよ。だからこつちも、一歩一歩、着実に、ふだんどおりに、時のながれにのつて歩いてゆくの、たつたひとつの正しいやり方なん

だよ。だって、それ以外に方法はないんだからね。あせったり、いそいだりすると、また、なにがおこるかわからないということになる」

私が、なにがなんだかかわからずぼんやりしていると、おばあちゃんは、「さて」

といって立ちあがりました。もうばんごはんのしたくをするD時間なのです。

私は自分の部屋から持ってきた額に、私とおばあちゃんがえらんだ、おねえちゃんのすてきな写真をいれてかざりました。自分の写真をいれていた額でしたが、これからは、おねえちゃんに入っているらしいのです。

④あの日、とうさんとかあさんにつきそわれて病院から帰ってきたおねえちゃんは、下の客間にねかされました。頭の骨が折れているというのに、顔にはきずひとつありませんでした。両足のひざこぞうのあたりが、ちよつとすりむけていましたが、大きなけがではありませんでした。夜おそかったので、その日はなにもすることができず、ひっそりと、家族だけのお通夜をしました。⑤でもうちには、お線香一本もなかったのです。

(今村 肇子「ひとりたりない」〈理論社〉より)

問一 ◆ 線①「琴乃、おねえちゃんのアルバムから、いちばんすてきな、おねえちゃんの写真を、えらんでおくれ」とありますが、これは何のためですか。次のようにまとめたとき、空らんにあてはまるように、文章中のことばを用いて十字以内で答えなさい。

・おねえちゃんの写真を 十字以内 ため。

問二 ◆ 線②「私がショックをうけたのは、そこにうつっている、とくいそうでしあわせそうな、とうさんとかあさんのすがたでした」とありますが、琴乃がショックを受けた理由として考えられる最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分ではなく姉だけが両親にかわいがられ、ずっと不満だったことを思い出したから。

イ 写真の中の父と母は自分の知っている父と母とは別人かもしれないと思ったから。

ウ 父と母は娘を亡くしてどれだけ悲しい思いをしているかをあらためて感じたから。

エ その写真がいったいつ撮られたものなのかよくわからなくなってしまったから。

問三 ◆ 線③「さだめ」について、次の問いに答えなさい。

1 これについておばあちゃんが言っていることを次のようにまとめたとき、空らんにあてはまることばを、指定された字数で文章中からそれぞれぬき出して答えなさい。

・ I 六字 はわからなくても、人間は生まれたからにはそのさだめのなかで II 八字 いけない。

2 1 に対しての向き合い方として、おばあちゃんが考えていることを次のようにまとめたとき、空らんにあてはまることばを、指定された字数で文章中からそれぞれぬき出して答えなさい。

・ I 十一字 せず、 II 五字 につて歩いてゆく以外に方法はない。

問四 ◆ 線A～Dの「時間」の中で一つだけ意味のことなるものを選び、記号で答えなさい。

問五 ◆ 線④「あの日」とありますが、これはどんなことがあつた日のことをさしていますか。「く日」につながるように、文章中から十三字でぬき出して答えなさい。

・ 十三字 日。

問六 ◆ 一線⑤「でもうちには、お線香一本もなかったのです」とありますが、ここからわかることとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア いつのまにか家にあつたすべてのお線香を使い果たしてしまうほど長い時間が経ってしまったということ。
- イ 父も母も仕事が忙しくて毎晩帰宅が遅いため、お線香を一本も買うような時間がなかったということ。
- ウ 今までに起きたこともなく、また家族のだれもが想像もできないような悲しいできごとが起きたということ。
- エ 志乃のためのお線香の用意を家族全員が忘れてしまっていることに、だれも気がついていないということ。

4 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

入学した学校は、各学年一クラス。しかも、とても人数が少なかった。ぼく以外のみんなは、幼稚園や保育園がちがっても、おけいこや児童館、公園なんかでもともと顔見知りだったようで、入学式の時からおたがいをあだ名で呼びあっていた。

休み時間には学年や性別に関係なく、みんなごちゃ混ぜで運動場に飛びだして走りまわる。ぼくは、どのタイミングでその輪に入ればいいのかがわからなくて、いつも **A** していた。「鬼ごっこしようぜ。」

5

だれかが言い出した時、

(今だ!)

ぼくは勇気を出して立ちあがり、初めてじゃんけんの輪に入れてもらえた。なのに。

「せーの、じゃんけんすつたらかった、ぐつとばの、せつせつせ!」

(へ???)

ぼくひとりだけが、ちよきにした手をつきだして、ぼかんとしていた。

みんなが、いつせいに顔をしかめる。

「何やってんだよ!」

かけ声をかけた上級生の男子が、ぼくをどなりつけた。

「で、でも、『じゃんけん、ぼん』じゃ、ないの?」

ぼくは、**I** 声で言い訳した。

「は?? なにお前。どこの町内?」

背の高い上級生は、まゆをぐつと寄せて、ぼくを見下ろした。

「そいつ、郵便局の裏の新しい家に引っ越してきたやつじゃねーの? おれの妹が、言ったた気がする。」別の上級生が言うと、

「ああ、よそもんか。」

上級生は、ばかにしたように **II** で笑った。

「ほら、もう一回いくぞ。じゃんけんすつたらかった、ぐつとばの、せつせつせ!」

ぼくは、またタイミングがつかめずに、ひとりだけ先に手をつきだしてしまった。

「なんだよ、お前。鬼決めれねーじゃんか!」

大人みたいに低い声でどなられて、ぼくはすっかりすくみあがってしまった。

「ごめんなさい……。」

泣きそうになって、急いでその場をはなれた。

(せつかく、仲間に入れてもらえると思ったのに。)

ぼくはつつじの植えこみの前にしゃがんで、ひとりでじつと運動場をながめた。ぼくのことなんて気にせずに、みんな、楽しそうに遊んでいる。

(前の家のほうが、よかったなあ……。)

ぼくはチャイムが鳴るまで、ずっとそこから動かなかった。

10

15

20

25

30

(中略)

「聡ちゃん、新しいお友だち、できた？」

学校から帰ると、母さんは必ずそうきいてきた。

① 終わりの会のあと、まっすぐに家に帰り、**B**と宿題をすませてぼーっとしているぼくを見て、母さんは心配しているようだった。

「うん、まあ。」

てきとうに返事をして、また次の日、同じことをきかれた。

「せっかく広いお部屋になったんだから、二人までじゃなくて、もっとたくさんお友だちを連れてきてもいいのよ。」

そう言われても、ぼくには家に呼べるような友だちがいないんだからしょうがない。

② 班活動なんかでは自然と話ができるのに、そこから特別に約束をして遊ぶというのが、どうすればいいのかわからない。

家庭訪問の時、母さんが学校でのぼくの様子を先生に質問しているのを、リビングのドア越しに聞いてしまった。

「大丈夫ですよ。高橋くんは②仲間はずれにされているわけじゃありませんから。」

先生は、明るい声でそう答えた。

「それならいいんですけど、あの子、ちょっと引っ込み思案などころがあるので、うまくお友だちの輪に入れないんじゃないかと思ひまして……。」

「お友だちと遊ぶのが好きな子もいれば、ひとりが好きな子もいます。お母さんが不安になられると、おすさんも不安になりますので、心配されなくても大丈夫ですよ。」

先生は、まるで小さい子に言い聞かせるように、優しい口調で母さんに説明していた。

(別に、ひとりが好きってわけでもないんだけど……。)

Cにみがかれたらうかの床を見つめて、ぼくはひざを抱えた。

③ 父さんも母さんも、ぼくのためにこの家に引っ越したって言うたのに、がっかりしてるんだらうなあ。

そう思うと、なんだか申し訳ない気持ちになった。

(家に帰るのが早すぎるから、母さんに心配をかけてしまうのかも。)

次の日から、ぼくは用もないのに完全下校の時間まで、ひとりで教室に残って宿題をしたり、図書館で本を読んでから帰るようになった。

いつものように、放課後、教室に残ってひとりで宿題をしていた時。

風でプリントが飛ぶので、窓を閉めようと立ちあがり、グラウンドを走りまわる同じクラスの子たちをぼんやり見つめた。

(どうしてぼくは、あの中に入っていけないんだらう?)

楽しそうに声を上げて笑うみんなの顔が、ふいににじむ。

もしかしたら、ぼくはまちがった場所にいるのかもしれない。

ここではなくて、どこかもつと別のところに、ぼくがいるべき場所があるにちがいない。

そこには同じことで笑えて、共通の話題で盛りあがれる友だちがいるに決まってる。

④ グラウンドの音が聞こえないように、ぼくはびしりと窓を閉め、カーテンを引いた。

(宮下 恵葉 「真夜中のカカシデイズ」〈学研プラス〉より)

問一 ◆ **A** **C** にあてはまることばとして最も適切なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。
ア がちがち イ はやばや ウ ぴかぴか エ まごまご

問二 ◆ **I** にあてはまることばとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア かの鳴くような イ ねこの鳴くような
ウ 鳥が歌うような エ 犬がほえるような

40
45
50
55
60
65
70

問三 Ⅱにあてはまることばとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 鼻 イ あご ウ 目 エ 口

問四 線①「母さんは心配しているようだった」とありますが、母さんの気持ちを次のように説明したとき、空らんにあてはまることばを指定された字数で文章中からさがし、はじめの四字をぬき出して答えなさい。

・「ぼく」が引っ越してきたばかりで、十四字のではないかと心配している。

問五 線②「仲間はずれにされているわけじゃありませんから」とありますが、引っ越してきたぼくは学校でどのように見られていますか。それがわかる四字のことばを文章中の35行めより前の部分からぬき出して答えなさい。

問六 線③「父さんも母さんも、ぼくのためにこの家に引っ越したって言ったのに、がっかりしてるんだらうなあ」とありますが、「ぼく」はどんなことで父や母をがっかりさせていると考えていますか。文章中のことばを使って二十五字以内で答えなさい。

問七 線④「グラウンドの音が聞こえないように、ぼくはびしゃんと窓を閉め、カーテンを引いた」とありますが、このときのぼくの気持ちとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア グラウンドからの声がうるさくて宿題に集中できず、いらいらした気持ちをおさえようとしている。
- イ 自分だけ友だちの輪の中に入れず、悲しくてみじめになる気持ちをふりはらおうとしている。
- ウ 自分には本来いるべき場所があるのに、まちがったところに連れてきた両親に疑問を感じている。
- エ 自分を仲間外れにし、自分たちだけで楽しんでいる上級生や同級生に腹がたつてしかたがない。